平成１９年度　年報

駒ヶ岳・大沼

【平成１９年　９月１３日　国際ワークキャンプ】

森林環境保全ふれあいセンターは、

国有林野を活用し、自然再生や生物多様性の保全に取り組むＮＰＯや森林環境教育に携わる教育関係者等の活動を技術的に支援する組織として、平成１６年４月に設置されました。

国民の森林・国有林

林　野　庁　　北海道森林管理局

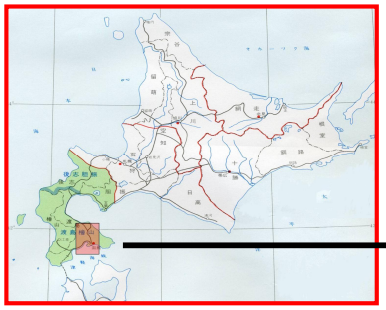
駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター

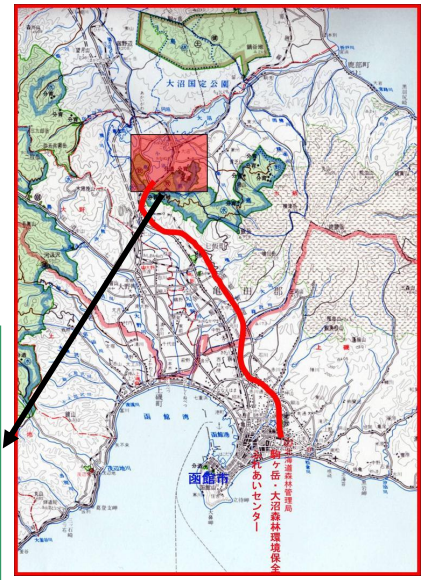
大沼地域自然再生等モデル事業の取り組み

モデル事業地は、大沼国定公園エリアに所在し、漁業関係者から水質保全、観光関係者から景観の維持向上、自然保護関係者から鳥獣生息環境の維持向上等が強く求められているなど、環境保全や森林整備に係る関心や期待の高い地域となっています。

このため、モデル事業の推進について、自然保護関係者や民間ボランティア団体等の代表者で構成する検討委員会を開催し、モデル事業地の箇所の選定、森林の取り扱い、事業の推進方法等についてのグランドデザインを作成するとともに、地域等が大沼地区の国有林に求めているニーズをモデル事業に反映するよう努めることにしています。

「大沼地域自然再生等モデル事業」は、地域住民等と連携し、**「多様性のある森林への再生」**と当該地及び近接地において**「森林環境教育の推進」**を主とし、取り組みを進めることとしています。





＝ 検討委員会 ＝

- 平成16年度
  ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ作成ために3回実施。
- 平成17年度～平成19年度
  ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝに基づく事業内容の検証及び検討のためそれぞれ2回実施。

☆「大沼自然豊かな森づくり協議会」の開催

平成１９年４月２６日（木）に「大沼自然豊かな森づくり協議会」の総会を開催しました。

当日は、「多様性のある森林への再生」（吉野山国有林）の作業現地において、昨年、各団体が取り組んだ、実行内容の確認と、今年の事業現場を確認し、意見交換や注意事項を話し合い、意思統一を図りました。

また、作業現地での確認後、南北海道大沼婦人会館に移動し、宮崎会長（大沼漁業協同組合代表理事組合長）を議長とし、総会を実施しました。

★当協議会は、大沼地域自然再生等モデル事業のグランドデザインに基づき、森林の再生活動を行うことを目的として平成１７年４月に組織されたものです。

【 協議会の様子（平成19年4月26日）】

協 議 会 参 加 団 体 等 名
大沼漁業協同組合
大沼町内会連絡協議会
大沼の水と緑を守る会（NPO）
大沼マイルストーン22（NPO）
北海道森林鳥類調査室ｸﾏｹﾞﾗ研究会（NPO）
函館地方国有林退職者緑の募金推進協議会
その他個人会員
関係行政機関

☆ 多様性のある森林への再生

大正１４年植栽ドイツトウヒ人工林と昭和５６～５８年植栽トドマツ人工林の１４．９１ｈａの森林を、地域ニーズを踏まえた生物・水質・景観など多様性のある森林へ誘導します。

具体的には、周辺の天然林を参考とした森林へと育成します。

「多様性のある森林への再生」箇所において、様々な取り組みを行っています。平成19年度の主な実施内容は、次のとおりです。

平成１９年７月９日（月）に「大沼地域自然再生等モデル事業」の「多様性のある森林への再生」箇所において、ボランティア活動により、下刈り作業を実施しました。

作業地は、吉野山国有林で、平成１６年度に大正１４年植栽のドイツトウヒの伐採跡地であり、平成１７年・１８年度にボランティアにより植栽したミズナラやエゾヤマザクラ、エゾイタヤ、ハルニレ等の天然で発生している稚幼樹が多く発生し、クマイザサや草類に被圧されている状況にあります。

当日は、暑さも和ぎ、絶好の作業日和となり、新聞等の公募により参加した一般参加者と大沼自然豊かな森づくり協議会のメンバー総勢３６名が参加し、作業前には、宮崎協議会会長や当ふれあいセンター所長から「多様性のある森林への再生」の趣旨と安全作業についての指導を受けた後、１０時から１２時まで２時間の行程で下刈り作業に汗を流しました。

下刈り作業は、水質保全、野生生物の保護等を目的とした森林の育成であり、多くの草類の繁茂している中、稚幼樹をなかなか発見できなく、鎌で傷つける可能性もあることから、慎重に作業を行い、終了後には、「いい汗をかいた」、「今日は環境に良いことをやったぞ」等の話をされ、それぞれが満足した様子でした。

平成１９年９月４、７、１３日の３日間、大沼国際環境ワークキャンプの参加者が、吉野山国有林において保育間伐、枝払い等森林作業のボランティア活動を実施しました。国際ワークキャンプの参加者は、ロシア、オーストリア、タイ、韓国と日本の学生等１８名の若者達で構成され、大沼一帯で自然環境保護を目的としたボランティア活動を実施するため、七飯町字大沼に９月２日から１６日まで滞在し、諸活動に取り組みました。

また、このキャンプと同時に中長期型の国際ワークキャンプ（７月２１日から１０月９日）も行われ、４名の参加者（内１名は途中帰国）が、吉野山国有林のモデル事業地においては、トドマツ人工林の間伐作業・下刈作業やミズナラ種子のポット苗作りなど、環境保護を目的とした活動を実施しました。

このボランティア活動に参加した若者達の真摯に取り組み姿勢を見て、私たちも気持ちを新たにしたところです。

平成２０年３月１７日（月）、モデル事業の「多様性のある森林への再生」において、「大沼自然豊かな森づくり協議会」による、ボランティア団体約３５名の参加により、トドマツ人工林の保育間伐を実施しました。当ふれあいセンターでは、ボランティアによる保育間伐を年度当初に３５４本の計画を組み、８月から９月の間で国際ワークキャンプの青年達により、約３００本の伐採を終えております。例年であれば協議会による間伐を年２回予定しているところですが、今年は残り本数が約５０本ということもあり、１日での実施となったところです。

作業する現地のトドマツは昭和５７年に植栽されたもので、胸高直径は８㎝から太いものでは１６㎝に達しているものもあり、参加者はチェンソーや手鋸を使用して１本１本丁寧に、伐倒・枝払い・玉切り作業を一生懸命に行いました。

当日は天候は、この時期にしては暖かい気温でしたが、時折小雨が振るあいにくの空模様となり、作業への支障を心配しましたが、参加者の熱意「多様性のある森林への誘導という目標」により、無事に全作業を完了することができ、心地よい汗をかいたところです。

作業終了後には、協議会より手作りの力うどんの提供があり、エネルギーの補給を行い、また参加者からは来年度の意気込みなども話され、和やかなうちに本日の行程を終了しました。

☆ 森林環境教育の推進

西大沼国有林の樹木博士認定常設コースを拠点とし、森林に対する関心と理解の醸成を図る活動を実施しています。

具体的には、森林環境教育の指導者の養成等のための樹木博士認定会の開催や自然観察会等を実施し、森林環境教育を推進します。また、多様性のある森林への再生活動（吉野山国有林）においても森林環境教育を実施することとしています。

樹木博士認定常設コース（事前学習コースとテストコース）

センターで作成している「樹木ガイドブック」を平成２０年度に向けに新版（旧ガイドブックは平成１８年度発行）として作成しました。